

## 平成 30 年度 学域学類からの案内

## 理工学域

1 年次履修可能な専門教育科目 1 年次配当の科目

## 数物科学類

## 履修が望ましい科目等

- 1 年次配当の専門教育科目は一括入試で入学した学生を想定したものではありませんが、興味を持った学生、希望する学生は履修することができます。
- 次の科目は 2 年次以降の専門教育科目履修との兼ね合いから、可能であれば 1 年次に履修しておくほうが良いかもしれません。
  - ・ 中学校理科の教員免許を取得希望の場合→ $\text{国}$ 化学実験
  - ・ 情報の教員免許を取得希望の場合→ $\text{国}$ 情報・計算科学基礎、 $\text{国}$ 計算科学

## 物質化学類

## 履修が望ましい科目等

- $\text{国}$ 物理化学基礎、 $\text{国}$ 有機化学基礎、 $\text{国}$ 情報処理演習、 $\text{国}$ 化学実験
- 基礎科目は、学類の必修及び必要単位数を確認の上、履修してください。
- 教育職員免許状の取得を希望する学生には、1 年次に第 66 条の 6 に定める科目（『共通教育科目履修案内』参照）と  $\text{国}$ 教師論及び  $\text{国}$ 化学実験の履修を強く推奨します。2 年次に学類に移行する際に教職ガイダンスを改めて実施します。

## 1 年次で修得すべき専門教育科目の扱い

- 1 年次に修得できなかった場合は 2, 3 年次に履修するものとしますが、時間割が重複する場合は集中講義で対応します（ $\text{国}$ 情報処理演習）。

## 機械工学類

## 履修が望ましい科目等

- $\text{国}$ 微分方程式及び演習（Q 3, Q 4 火曜 2 限）、 $\text{国}$ 先端テクノロジー概論（学域 GS 科目、Q 3 火曜 5 限）
- 基礎科目は、学類の必修及び必要単位数を確認の上、履修してください。

## フロンティア工学類

## 履修が望ましい科目等

- $\text{国}$ 微分方程式及び演習（Q 3, Q 4 火曜 2 限）、 $\text{国}$ 先端テクノロジー概論（学域 GS 科目、Q 3 火曜 5 限）
- 基礎科目は、学類の必修及び必要単位数を確認の上、履修してください。

## 電子情報通信学類

## 履修が望ましい科目等

- $\text{国}$ 微分方程式及び演習（Q 3, Q 4 火曜 2 限）、 $\text{国}$ 先端テクノロジー概論（学域 GS 科目、Q 3 火曜 5 限）
- 基礎科目は、学類の必修及び必要単位数を確認の上、履修してください。

## 地球社会基盤学類

## 履修が望ましい科目等

- $\text{国}$ 情報処理基礎、 $\text{国}$ 地域概論、 $\text{国}$ 物理学 I、 $\text{国}$ 化学 I、 $\text{国}$ 地学 I、 $\text{国}$ 微分積分学第一、 $\text{国}$ 線形代数学第一の単位を修得しておかないと 2 年次開講の必修科目等が取れず留年する可能性があります。
- $\text{国}$ 物理学実験と  $\text{国}$ 化学実験が選択必修となっており、どちらかの単位を修得する必要があります。
- 基礎科目として、16 単位が必要なので、前述の必修科目、選択必修科目のほかに、2 科目（4 単位）、合計で 16 単位が必要となります。
- 一級建築士受験資格を得るためには、建築学副専攻を修了する必要があります。
- 教育職員免許状の「理科」の免許と「工業」の免許では、必要な科目が異なります。
  - 「理科」の場合、 $\text{国}$ 教師論/ $\text{国}$ 物理学実験/ $\text{国}$ 化学実験/ $\text{国}$ 生物学実験が必要です。

## 生命理工学類

## 履修が望ましい科目等

- $\text{国}$ 生命理工学概論 A、 $\text{国}$ 生命理工学概論 B  
（必修科目ではありませんが、生命理工学類の内容を理解する上で参考になりますので履修を薦めます。）
- GS 科目「 $\text{国}$ 細胞・分子生物学」を履修する事が望まれます。
- 教育職員免許状の取得を希望する学生は、教育職員免許法及び同施行規則に定められた単位を修得しなければなりません。生命理工学類で取得できる教育職員免許状の種類や免許状の取得に必要な単位の修得方法については、『理工学域履修案内』及び『共通教育科目履修案内』に記載しています。中学校 1 種免許状（理科）を取得する場合は、 $\text{国}$ 物理学実験及び  $\text{国}$ 化学実験の修得が必要です。

[注] 1 年次配当の専門教育科目は、次の Web サイトに掲載されている授業時間割表で確認してください。  
<https://ilas.w3.kanazawa-u.ac.jp/students/>

## 平成 30 年度 学域学類からの案内

## 医薬保健学域

**1 年次履修可能な専門教育科目** 収容人数等の関係上、履修可能な専門教育科目はありません。

## 医学類

## 履修が望ましい科目等

- 医学類を目指すならば、例えば、GS 科目の「**国**細胞・分子生物学」を履修する等、生命科学を学ぶことが望まれます。
- 共通教育科目の履修について、移行点対象科目及びその他医学類で定める修得すべき共通教育科目について 36 単位以上を、導入科目及び「**国**プレゼン・ディベート論（初学者ゼミⅡ）」を含めて総合教育部 1 年次に修得してください。未履修や単位不足があると、医学類に移行した時点で、次年度、3 年次に進級できないことが確定してしまう場合があります。

## 創薬科学類

## 履修が望ましい科目等

- **国**統計数学, **国**化学実験, 「**国**ひとのからだ I（前期水曜 1 限）」, 「**国**ひとのからだ II（後期月曜 1 限）」, **国**医薬保健学基礎 II の医薬保健学域共通部分（Q 2 金曜 4 限）の 4 回分（平成 30 年度予定日：7 月 6 日（金）4 限（14:45～16:15）, 7 月 13 日（金）4 限（14:45～16:15）, 7 月 20 日（金）4 限（14:45～16:15）, 7 月 27 日（金）4 限（14:45～16:15））
- 共通教育科目は可能な限り 1 年次に修得してください。

## 保健学類

## 履修が望ましい科目等

- 検査技術科学専攻では、基礎科目の **国**統計数学を 1 年次にできる限り履修してください。
- 1 年次に修得が望ましい専門教育科目はありません。本来 1 年次で修得すべき専門教育科目は、学類移行後の 2 年次で履修し、履修登録単位数の上限超過については保健学教務委員会で審議します。
- 共通教育科目は可能な限り 1 年次に修得してください。導入科目及び「**国**プレゼン・ディベート論（初学者ゼミⅡ）」に未履修や単位不足があると 2 年次以降での修得が困難となる場合があります。